

# パンフレット (両親指導の手引き書) のすすめ



## 39 「明日を信じて」

—発達障害の子どもと向きあって22年—

紹介者 山口県親の会顧問（元山口市白石小学校ことばの教室担当）熊野汎美先生  
母と息子の歩みの日々・・・「私がここに至るまでのこと、それは息子が私の許に生まれ、それからの日々（時々刻々の時を刻んで）を通して、導いてくれたからこそのことだ」と著者は結論付けておられます。

結婚当初は、多くの方と同様の有識婦人であり、その限りにおいては極普通の女性であった著者が、今では精神科病院勤務の臨床心理士であり、ご子息は大学院でスポーツ心理学を専攻する学究です。

事、ここに至るまでの道のりの開示、二人のこれまでの関わりについて、前半は母親の眼で、後半は専門職としての見地からのコメントを含め、平易な文章で書かれています。きっと多くの方々の共感を呼ぶことでしょう。

育てるのに多くの手間と時間がかかる障害のあるお子様をお持ちの方々には是非おすすめしたいと思います。

パンフレットの終わりの部分に、「今回の執筆に当たって、自分の履歴が公表される事を快く承諾してくれた安田風明さんに、この場を借りまして深く感謝いたします」の記述があります。

さらに「子育ての基本は同じです。ただ、何らかの障害というか、育てにくさがあることで、私たち親は、子どもから『生きること』の意味を考えるチャンスをもたらったのです。

39

## 明日を信じて—私の子育て奮闘記—

発達障害の子どもと向きあって22年

両親指導の手引き書



全国ことばを育む親の会



この手引き書は、日本自転車振興会（運輸公益資金）の補助を受けて出版するものです。  
<http://www.keirin.go.jp>

何もなければ、チャンスを見逃したかも知れません。ある意味、障害のある子をもつ親の方が恵まれているのではないかと。

「日常生活のコーナーには、感動的なことがた

くさん隠されています。私は、夕餉のひととき、食卓を囲むことに感動できる人間でありたいと思っています。またずっと大切にしてきました。だからこそ、今もって感動できるのだと思います。」

こうした小さな感動の積み重ねが、「生きることの意味」を問い、本当の意味での「ことばを育む」ことにつながっていくと確信しています。

書き出しの「はじめに」の部分から読み始められること、序章からの展開、目次を母（時には父）親との日々の生活の場面場面での双方の微妙な心の動きを汲み取ることが出来ると思います。

是非じっくりと読み通されて、「親」（母または父）としてその時々、ことに直面した時の気持ち（心の動き）、その場面に応じた対処の姿を感得されますように・・・。

## イエローリボン・バッチを普及 しています。ご協力ください。



Yellow Ribbon

イエローリボンは、障害のある人びとの、その人らしい自立と社会参加をめざすシンボルです。

バッチは、一個300円で普及しています。全国親の会事務局で扱っています。